

# みどりの東北

MIDORI NO TOHOKU

Vol.  
**157**  
東北森林管理局

特集

「地域管理経営計画」及び  
「国有林野施業実施計画」の策定

## CONTENTS

### ■美しい森林づくり

低コストの森林づくりへのチャレンジ.....【三陸北部森林管理署】

### ■我が署の名所

クジラ伝説の息づく山.....【三陸中部森林管理署】

春の岩木山（総務課提供）

# 「地域管理経営計画」及び「国有林野施業実施計画」の策定

東北森林管理局では、東北5県の17森林計画区ごとに地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画を策定し、これらの計画に基づき国有林野の管理経営を行っています。

地域管理経営計画は、今後5年間における国有林野の管理経営の基本方針や、国有林野の維持、保存、活用や林産物の供給に関する



策定又は変更の対象となる森林計画区

事項、国民参加による森林整備等について定めるものです。また国有林野施業実施計画は、今後5年間における国有林野の伐採、造林等の箇所や量を定めています。

平成28年度は、津軽、久慈・閉伊川、置賜の3森林計画区で計画を策定し、14の森林計画区で保護林再編等に伴う計画の変更を行いました。

計画の策定及び変更にあたっては、国民の声を適切に反映させるため、様々な機会を設けて国民の皆様のご意見を聴くこととしています。

一つ目は、地域の皆様のご意見、ご要望を聴くための住民懇談会です。平成27年11月から平成28年1月にかけて、計画を策定する3森林計画区ごとに開催した住民懇談会では、まず森林管理局と森林管理署から計画区の概況や次期計画の基本的方針などを説明しました。その後意見交換が行われ、木材供給量や事業量の安定確保、二ホンジカやナラ枯れによる森林被害への対策、国有林の取組の一層のPRの必要性等、数多くのご意見、ご要望

が寄せられました。



住民懇談会で意見等を述べる出席者  
(久慈・閉伊川森林計画区)

二つ目は、学識経験者等の委員から、計画策定にあたっての諸課題について現地でご意見を聴くための現地検討会です。平成28年7月26～27日にかけて津軽森林計画区で開催した本検討会では、計画策定のポイントの一つである「多様な森林への誘導」に向けて、複

層伐実施箇所やヒバ林復元候補地等の視察を行いました。参加者からは、目標林型や、複層伐で伐採する列と保残する列の幅の広さ、伐採後に植栽する樹種等について活発な意見交換が行われました。



複層伐実施箇所での議論の様子  
(津軽森林計画区)

三つ目は、学識経験者等の委員から、計画案についてご意見を聴くための「森林計画等に関する検討会」です。平成29年3月14日に開催した本検討会では、森林管理局から主要事業の計画量をはじめ計画案の概要について説明を行った後、計画案について意見交換を



ヒバ林復元箇所での議論の様子  
(津軽森林計画区)

行いました。各委員からは、主伐後の再造林の確実な実行や、森林共同施業団地のこれまでの事例を分析し取組を拡大させることの重要性を指摘するご意見や、森林・林業技術者の育成に向けた取り組みの一層の推進を要望するご意見などが寄せられました。

このように様々な場で頂いたご意見、ご要望を踏まえて策定、変更した地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画を、平成29年3月23日に公表しました。



森林計画等に関する検討会の様子

公表した計画書は、東北森林管理局のウェブサイト ([http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/management/keikaku/tikan\\_jissi\\_keikakusyo.html](http://www.rinya.maff.go.jp/tohoku/policy/business/management/keikaku/tikan_jissi_keikakusyo.html)) からご覧になれます。

# 美しい森林づくり

## 低コストの森林づくりへのチャレンジ 三陸北部森林管理署

### (1) 低密度植栽

低密度植栽は、苗木や植栽の費用の削減だけでなく、保育間伐の省略等、全般的な費用の縮減につながるが見込まれるほか、一定程度の広葉樹の進入も想定され、生物多様性の確保にも効果があると思われることから、植栽木の成長・材積への影響、生物多様性の程度を明らかにするため設定されており、当署においては平成 26 年度からスギ試験地 (8.52ha)、カラマツ試験地 (10.29ha) が設定され、それぞれ ha あたり 500 本区、1,000 本区、1,500 本区、2,500 本区を設定し、さらに下刈りの「通年区」、「隔年区」と分けて、計 8 区画設定しています。

スギのプロットでは、活着率が 98%、枯損本数が 8 本となっており、下草が少ないことから枯損本数も少ない。一方、カラマツのプロットでは、活着率 92%、枯損本数 34 本となっています。



筋刈り後の状況 (区界)



筋刈り後の状況 (半崎)

### (2) 海岸林造成

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災による津波被害跡地である宮古市重茂与奈地区鉾山国有林 20 ろ 2 林小班に、「多雪寒冷地等におけるコンテナ苗の改良と低コスト育林手法の開発」を技術開発課題として、平成 24 年 10 月に 3 タイプの土壌 (津波浸食土壌・津波浸食土壌+バーク堆肥混入土壌・塩害のある森林土壌) での植栽 (アカマツコンテナ苗) 試験区を設定し、平成 25 年 5 月にはコナラコンテナ苗とケヤキ普通苗の広葉樹による試験区も設定し各種調査を実施しているところ。



植栽箇所の状況

3 タイプの土壌においては若干の生育状況の違いはありますが、ほぼ同程度の生育状況であり津波浸食土壌であっても菌根菌が残っていることでアカマツコンテナ苗やケヤキ・コナラが共生しやすい、岩石混じりの厳しい条件の試験地であっても十分生育が見込まれるところです。

「アカマツとの混植による活着・残存率が高く、成長量も優れ、荒廃的な土壌で乾燥と寒風の条件下においても海岸林の造成が期待できる」という試験結果となっています。

### (3) 早生樹を使用した施業モデルの構築

これまでの林業は、高コスト、長伐期のため効率が悪く、林業収益の増加、採算性の向上には、低コスト、短伐期施業の確立が必要であることから東北地方における早生樹施業モデルの確立を目的として平成 28 年度に早生樹の試験区を設定したものです。

試験区は田野畑村田野畑国有林 570 か 1 林小班 0.63ha 内にユリノキ 500 本/ha 区：90 本、1,000 本/ha 区：180 本、イチョウ 1,000 本/ha 区：90 本、ヤマハンノキ 1,000 本区：90 本を植栽、各試験区に 16 本×2 プロット調査木を設定しています。

植樹にあたっては、山の日記念「早生樹の森」植樹祭として昨年の 6 月 13 日、田野畑村、田野畑村森林組合、田野畑村漁業協同組合のご協力をいただき植樹したものです。

試験計画は、植栽木調査 (樹高、根際径、枝張、活着、被害等)、周囲植生調査、下刈、除伐功程調査を実施する計画であり、品質の検証、短伐期 (約 30 年前後) の可能性を探る、東北地方における早生樹施業モデルの確立を図るための試験計画であり今後の試験結果に期待しているところです。



植栽状況 (田野畑)

以上のように当署においては、低密度植栽、海岸林の造成、早生樹の試験区等を設定し、試験・調査が行われています。

今後は岩手県沿岸広域振興局、市町村の担当者等との現地検討会などを開催し、技術の普及に努めていきたいと考えています。



各地  
からの  
たよりの

## 森林総合監理士 先進地視察研修に参加して

盛岡森林管理署 松尾 亨  
現・計画課 松浦 博文



清万採種園の林内

2月21日から3泊4日の行程で、平成25年度森林総合監理士資格取得者（盛岡署：松尾亨 現・計画課：松浦博文）による森林林業先進地視察を行ったので、その概要について紹介します。

今回の視察は、森林総合監理士とし

てのスキルアップを目的に、自らが視察先を選定し、視察先への依頼や管轄局署との調整、現地までの交通手段等の計画を立て、冬の信州へと向かいました。

初日は、昼過ぎに佐久市佐久平駅に到着。東信森林管理署の送迎により浅間山の麓にある清万採種園へ。園の入口には懐かしの名機CT-35トラクタが待ち構えており、夢中で写真撮影をしていると、軽井沢森林事務所首席森林官から園の説明が始まりました。昭和35～37年にかけて長野県内及び群馬、新潟、福島、栃木、山梨、岐阜の各県より精英樹クローンが集められ、約45haの事業採種園として設定されたのが始まりで、その後、山火事や園の見直し等により現在は約5.7haに規模を縮小。苗木の需要減少から約30年間はほとんど整備がされていないかつた

ものの、近年の急激なカラマツ苗木の需要増加により平成27年から再整備を開始したとのこと。園内は着果を促すために環状剥皮が施されたカラマツが均等に配置され、球果を採種するための高所作業車進入のスペースも確保されていたほか、近年はドローンによる着果調査も行われているとのことでした。

つぎに、日本最古のカラマツ人工林と言われている「浅間山カラマツ植物群落保護林」へ向かいました。嘉永3年（千八百五十年）頃に小諸藩が山引き（山取苗）のカラマツ苗木を植栽したと伝えられ、我が国で最も古いカラマツ造林地として学術的にも貴重なことから保護林に設定、面積は約1.5ha



東信木材センターでの説明

とやや小さいものの、亀甲状の樹皮に覆われた通直・完満で壮大なカラマツ林に目を奪われました。

その後、天然アカマツの群生林である「浅間山霧上の松植物群落保護林」を視察し、続いて、東信森林管理署の配慮により「絶対に見るべき」という

東信木材センターへ。近年、急激に業績を伸ばしている当センターは、敷地面積が約七千坪と決して広いとはいえない貯木場ですが、取扱量が約15万立方で売上高は約17億1千万円。いくつかの疑問に当センターの小相沢専務がパワーポイントを使って説明してくれました。

まずは、「信州カラマツはヤング係数も高く、震災復興用資材の需要も増まって、『とにかく売れる』とのこと。さらに『当センターでは一目選木という1cm刻みの仕分けをすることによって、買い手が自社工場で仕分ける手間を省くことができるメリットがある』。また、『輸送トラックの帰り荷として、空荷で戻るより、当センターに寄ってもらえればいつでも荷（木材）がある。この手法で安い単価による運材を行う



ソヤノウッドパークに山積みされたアカマツ

ている」。そして、『このような仕事ができるのも、安定的に供給をいただいている国有林の安定供給システム販売のおかげだ』と感謝の気持ちを述べられていました。

その後、当センターを後にした私たちは、東信森林管理署へ向かい、次長から管内概要等の説明を受け1日目が終了。

2日目は、電車を乗り継ぎ塩尻市の「ソヤノウッドパーク」へ。約三万一千七百坪の広大な敷地に真新しい施設（平成26完成）が建ち並び、貯木場にはアカマツが山のように積みまわっていました。

ここでは、長野県、塩尻市、征矢野建材株式会社、大学など、産学官連携による「信州H・POWERプロジェクト」が立ち上げられ、年間約10万立方の原木消費を目標に事業に取り組んでいるとのこと。しかし、現在の取扱量は三分の一にも満たない約3万立方／年と製材品の売払いに苦戦を強いられています。

3日目は、木曾森林管理署において署長ほか担当職員から管内概要等の説明を受けました。

平成28年度の収穫量は七万八千八百立方、素材生産量は約六万一千三百三十



架線集材のために張り巡らせたワイヤー

立方、収入額が約16億円と、桁違いの収入額に驚愕しました。同時に木曾ヒノキの販売単価の高さにも驚かされました。その後、架線集材作業を行っている生産請負現場へ向かいました。当日はあいにくの天候で作業は休止。木曾地方では、ほとんどの事業体が降雨時の作業は危険という理由から休止するとのこと。昔ながらのしきたりを守っているそうです。視察した作業現場は2カ所。いずれも架線集材を行っており、索張り方式はインドレスタイラー式（スパン350m）とダブルエンドレス式（スパン527m）。向柱に取り付けられたガイドブロックや張り巡らされたワイヤーを目にし、脳裏に懐かしい光景が蘇りました。



ボードウィン蒸気機関車

現地に居合わせた事業体担当者からは「木曾谷のような急傾斜地では架線集材は必須。架設に時間を要するものの、張り上げ後は集材も容易なため、今後も架線集材を続ける」旨のお話を聞くことができました。

その後、木曾悠久の森「赤沢自然休

養林」へ。冬期閉鎖中であつたものの、木曾森林管理署のご配慮により「森林鉄道記念館」を見学。ボードウィン蒸気機関車やC4型ディーゼル機関車など、写真や映像でしか見たことのない機関車を目にすることができました。

次に新上松土場へ。約八千四百坪の貯木場にはベニガワで品等格付けされたヒノキやサワラが所狭しと並んでいました。この土場では、中部局森林整備部企画官（駐在）から、取扱い樹種、販売方法、樹種別の販売単価などの説明を受けたほか、伊勢神宮への納材について貴重なお話を聞くこともできました。

午後からは、「御料館」（旧帝室林野局木曾支局庁舎）と「木曾山林資料館」へ。管理人の古畑さんから両館の案内と説明を受けました。「御料館」は、御料林を管理するために明治36年「宮内庁御料局木曾支庁」として建てられたものの、昭和2年の大火により焼失。わずか6ヶ月で旧庁舎を模した現在の庁舎が再建され、当時の皇室の威風凛々かがい知ることができました。また、「木曾山林資料館」は、所蔵している林業教育にかかわる資料と資料館前に広がる演習林が「林業遺産」に認定されており、管内には、入庁当時（昭和60年代）に使用していた懐かしい調査器具や見たことも無いような機械器具、また、数千冊に及ぶ書籍などが展示されていました。

無事にこの日ですべての行程を終え、翌朝、木曾福島駅から帰路につき

今回の先進地視察研修を終えて感じたことは、まだまだ自分達が「井の中の蛙」であり、もっとスキルアップをしなければならぬということ。そして、もっと他局のことや、森林林業に係る国内全体の流れなどに目



三分の二サイズの御神木奉曳車

を向ける必要があることも考えさせられました。今回の視察研修の中で、木曾森林管理署長から「このように他局の事を学ぶことは大変いいことだと思つ。今度は、こちらから東北局への視察研修なども考えていきたい」とのお話もありました。これを契機に、森林総合監理士の知見を深めるひとつとして、森林管理局間での視察交流が広がってほしいものです。

最後に、この度の視察研修に際しては本局より多大なご配慮をいただきました。この場をお借りして感謝申し上げますとともに、期待に添えるようフォロー活動に邁進してまいります。

# mini corum

## 美しき防御

ケヤキ、ハナイカダ、サンショウ、トネリコ、オオモミジ、シウリザクラ

盛岡森林管理署

森林技術指導官 松尾 亨

新葉の季節が春もみじと言われる由縁は、樹種ごとに違う色の微妙な変化にあり、特徴を覚えると遠目にも見分けられ森林調査には最適の時期です。今回は春もみじの葉の展開について紹介します。

ケヤキは、赤みのある<sup>えんじ</sup>臙脂から<sup>もえぎ</sup>萌葱に変化します。写真は開葉と同時に花芽が出てきた状態です。ハナイカダやサンショウは、ともに萌葱と臙脂のコントラストで艶のある葉が光の具合で変化します。ハナイカダは葉の中央に花芽も見え、サンショウもこのくらいの新葉が和え物や天ぷらで食べ頃ですね。トネリコは田んぼの縁や湿地で見かけ、方言で「もえぶと（萌太）」とよばれ芽生えが大きく太いことを表しています。白い産毛に包まれたウグイス色で先端が臙脂になります。オオモミジは開葉直後は臙脂で次第に浅黄と変化していきます。艶のある葉が

赤ちゃんの「紅葉手」に見えます。シウリザクラは赤く萌え出ることから森のなかでひととき目立ちます。サクラ属の中では開花時期が遅く6月初旬に穂状の白い花を付けます。

なぜ春もみじ現象が起きるか科学的に証明されていないようですが、有力な説として①紫外線が強い時期なので新葉が焼けないようUV対策②遅霜などへの寒さ対策③柔らかい葉が虫に食べられやすい初期に葉緑素作りにエネルギー投資しない省エネ対策などが考えられます。共通しているのは赤い色素で、アントシアニンの働きによるもので、植物にとって新葉の時期を乗り切る防御策と考えられます。春もみじのように「美しい防御と展開で」で新年度もスタートしたいものですね。



ケヤキ



ハナイカダ



サンショウ



トネリコ



オオモミジ



シウリザクラ

## 新任者 略歴紹介

4月1日付け

### 総務課長

たかはし まもる  
高橋 守  
(秋田県)



昭和55.4 秋田局 管理課  
平成21.4 東北局 森林整備部企画官  
平成24.7 東北局 最上支署長  
平成26.4 東北局 資源活用課長

### 企画調整課長

ふかや としひろ  
深谷 俊宏  
(愛知県)



平成15.4 農林水産省入省  
平成23.4 国土交通省北海道局農林水産課専門官  
平成25.3 静岡県小山町経済建設部技監  
平成27.4 大臣官房文書課原子力災害対策専門官

### 計画課長

そえや みのる  
添谷 稔  
(神奈川県)



平成 5. 4 農林水産省入省  
平成18. 4 東北局 森林技術センター所長  
平成23.10 林野庁 木材利用課課長補佐  
平成26. 4 北海道局 総務企画部業務調整課長

### 治山課長

かわさき こうさく  
川崎 耕作  
(長崎県)



平成16.4 農林水産省入省  
平成22.4 林野庁 治山課企画係長  
平成24.4 国土交通省九州地方整備局  
調査・品質確保課長  
平成28.4 東北局 企画調整課長

### 資源活用課長

こまつ のぶひと  
小松 信人  
(秋田県)



昭和55.5 秋田局 利用課  
平成23.5 東北局 米代東部署次長  
平成25.4 東北局 森林整備部企画官  
平成27.4 東北局 湯沢支署長

### 技術普及課長

ほそかわ ひとし  
細川 斉  
(神奈川県)



昭和58.4 青森局 計画課  
平成20.4 東北局 宮城北部署次長  
平成23.5 東北局 津軽白神森林環境保全  
ふれあいセンター所長  
平成26. 4 林木育種センター 東北育種場

### 津軽白神森林生態系 保全センター所長

てらた はるお  
寺田 治男  
(秋田県)



昭和53.4 秋田局 経理課  
平成20.8 東北局 森林技術センター所長  
平成22.4 東北局 三陸中部署次長  
平成25.4 東北局 森林整備部企画官

### 青森森林管理署長

たかしま しんじ  
高嶋 伸二  
(熊本県)



昭和52.4 札幌局 計画課  
平成21.4 林野庁 林政課課長補佐  
平成24.4 中部局 木曽森林管理署長  
平成27.4 近中部 総務企画部長

### 下北森林管理署長

ささき いさお  
佐々木 功  
(岩手県)



昭和57.4 函館支局 造林課  
平成19.8 林野庁 企画課課長補佐  
平成25.4 関東局 計画保全部  
自然遺産保全調整官  
平成27.4 北海道局 留萌南部森林管理署長

### 三八上北森林 管理署長

こばやし たつお  
小林 辰男  
(長野県)



昭和57. 4 長野局 作業課  
平成20.12 中部局 販売課長  
平成23.10 中部局 森林整備課長  
平成27. 4 環境省 中部地方環境事務所  
生物多様性保全企画官

### 岩手南部森林 管理署長

いのまた えいじ  
猪股 英史  
(大分県)



平成 3.4 農林水産省入省  
平成22.4 農村振興局農村政策部  
中山間地域振興課課長補佐  
平成25.4 林野庁 林政部経営課課長補佐  
平成27.4 文部科学省 科学技術・学術政策局

### 湯沢支署長

あさり かずなり  
浅利 一成  
(秋田県)



昭和55.4 秋田局 福利厚生課  
平成21.4 津軽白神森林環境保全  
ふれあいセンター所長  
平成23.5 東北局 総務部専門官  
平成26.4 東北局 山形署次長

### 由利森林管理署長

せんぼくや あきら  
仙北谷 彰  
(秋田県)



昭和54.4 秋田局 計画課  
平成23.5 東北局 企画調整室監査官  
平成26.4 東北局 遠野支署長  
平成28.4 東北局 技術普及課長

### 置賜森林管理署長

さとう こういち  
佐藤 宏一  
(山形県)



昭和59.4 秋田局 作業課  
平成22.4 東北局 藤里森林センター所長  
平成25.4 東北局 計画保全部  
自然遺産保全調整官  
平成27.8 北海道局 留萌北部署長

### 海岸防災林 復旧対策室長

いちかわ ゆうこ  
市川 裕子  
(埼玉県)



平成 8.4 農林水産省入省  
平成22.7 林野庁 経営課課長補佐  
平成25.4 関東局 山梨森林管理事務所長  
平成27.4 環境省 自然環境計画課課長補佐



# 森林官からの手紙



## 地元と国有林の橋渡しとなれるように

山形森林管理署 最上支署 森林官 (赤倉担当区)

白川 省吾

さて、私がこの地に赴任して一年になります。まずビックリしたのは言葉が通じない?ことでした。地元の方の言葉が



川のせせらぎのきこえる赤倉温泉街

私の勤務する赤倉森林事務所は、山形県の北東部、宮城県との県境に位置する最上町の国有林を管轄しています。まずは、管内の様子をご紹介します。管内には、珍しいものや名所が幾つもあります。たとえば、河原を掘ってMy温泉につかることもできる「赤倉温泉」。全国的にも珍しい「目でみることでできる大分水嶺」。さらに松尾芭蕉が宿泊した建物としては唯一現存している「封人の家」は、芭蕉ファンの聖地となっています。また旧森林軌道跡、官営製材所跡、官営小学校跡などの旧営林署の遺産も多く、国有林と地元との昔からの深い関わりを想わせる土地でもあります。

また、仕事で山に入ってみると、これまで旧青森営林局管内で勤務し初めて旧秋田営林局管内で仕事をする私にとっては、驚きの連続でした。用語の違いや作業の段取り方法の違いなど、戸惑うことがたくさんありました。しかし「所変われば品変わる」とはよくいったものです。その土地々に合ったやり方があるもので、一年間旧青森局と旧秋田局の方法の違いを考えながら仕事をさせて頂きとても勉強になりました。また地元の方の言葉も大分理解でき



日本海と太平洋に分かれる大分水嶺

速すぎて何を話されているのか解らないのです。おまけに「あんだ、なまってるう」の言葉。確かに私は津軽生まれの津軽育ち、でも自分ではきれいな津軽弁?のつもり、同じ東北なのに…。久々にカルチャーショックをうけてしまいました。

るようになり、その後は、「あんだ、なまってるう」とは言われていません。私もこの土地のやり方ができるようになってきたのでしょうか…。

また、ここ赤倉森林事務所は、今でも地元との関係がとて深い事務所です。田畑や水路等の貸付地も多く、薪炭共用林組合等もいまだに機能しています。昔から国有林と深く関わってきた人も多く、私の知らない貴重な昔の国有林情報を教えてくださる方もいます。こういった中で、最近では、森林官として地元の方と実際に顔をあわせながら業務を進める日々がとて楽しく、また、やりがいも感じていきます。これからも、地元の方の意見、要望、苦情などを謙虚に聞いて理解に努め、微力ながらも国有林と地元との橋渡しができるよう、業務に取り組んでいきたいと思えます。



芭蕉ゆかりの貴重な建物「封人の家」

# 我が署の名所

クジラ伝説の息づく山

鯨山(610m) 岩手県上閉伊郡大槌町

鯨山は、大槌町と山田町にまたがる山であり、古くから三陸沖を行き交う船が「羅針盤」として目印にしています。

鯨山には、凶作時にクジラが大漁に獲れ、人々が肉を求めてこの山を目印に集まったことや、この地で「はやり病」があったときにクジラの肉を食べると治り、肉を求めてこの山の麓に人々が集まったなど、クジラに関する伝説がいくつかあります。

鯨山への登山道は、現在休止中のJR山田線浪板海岸駅から登る表参道コースがあり、2時間ほどで頂上に到着できます。

海側にはリアス海岸が織りなす複雑な海岸線と雄大な太平洋を一望でき、復興作業中の吉里吉里地区の様子も見る事ができます。また、内陸側には早池峰山などの北上山地の山々を見渡すことができます。

鯨山の麓には大槌町の「新大槌八景」の一つに数えられている浪板不動滝があります。この滝は鯨山で蓄えられた清らかな水が15mの高さから勢いよく流れ落ちており、荘厳な雰囲気があります。また周囲には古くから鯨山神社が祀られ、広く信仰を集めています。

この鯨山は環境省が整備を進めている「みちのく潮風トレイル」のコースの一部となっており、山田町方面に通り返ることができません。

秋の紅葉など季節によって様々な顔を見せる鯨山に一度足を延ばしてみたいかがでしょうか。



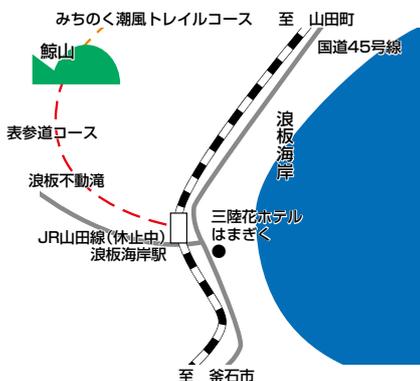
浪板不動滝



吉里吉里漁港より鯨山を望む



鯨山より浪板海岸を望む



## 三陸中部森林管理署

〒022-0003 岩手県大船渡市盛町字宇津野沢7-5  
TEL 0192-26-2161 FAX 0192-26-4279

### ◎交通アクセス

表参道コース入口まで車で  
JR釜石駅より35分  
JR宮古駅より55分  
岩手県交通 浪板バス停より徒歩5分

